

【理解するだけでは点になりません】

わかった、理解できた。完璧。

でもテストすると間違えてしまう。そんな経験はありませんか。

「理解する」と「答案を作成する」ことは別の作業です。

だから、わかったはずなのに点数が取れないことが起こってしまうのです。なかなか気づきにくいことですが、

「わかる」＝「できる」ではないのです。

わかっているのに失点する間違いは、

【ケアレスミスと言われる不注意によるミス】または、

【わかったつもりになっているだけ】があります。

確実に正答させるためには、「理解する」とあわせて「答案を作成する」練習もしなければならないのです。

特に、ケアレスミスは惜しい間違いではありません。できたはずの問題を得点しなかった重大な過ちです。得点にならなければ、できないのと同じです。

そうです「できない」とされてしまうのです。

「たまたまミスした」「次は大丈夫」と軽い認識のままだから何度目同じ過ちを繰り返すのです。早く気づきましょう。

では、そんな過ちを二度と犯さないためにどうすればよいのか。

やはり、「答案を作成する」練習 つまり、正確な答案を書く練習をするのです。

- 普段から 省略せず ノートに書く
- 普段から 丁寧に 文字を書く
- 数学なら暗算で済ませずに後から見て何をやったのか、どんな計算をやったのか分かるように途中式をしっかりと書く。英語なら解答部分の単語だけでなく1文全部で解答する。漢字で答えるものは漢字で書く。
- 普段から見直す。

特別なことをしなければならぬわけではありません。やれている人は常にやっていることです。当たり前にするべきことを当たり前にするだけでいいのです。

特にテストのときは「見直し」が重要になってきます。

◎ 第1に、正しく表記されているかの確認です。

漢字は正しく書けているか、読みにくい文字や数字を書いているか。

◎ 第2に、うっかりミスしていないかの確認です。

自分の名前が書かれているか、解答欄を間違えていないか、ピリオドやクエスチョンマークが書かれているか、マイナスを付け忘れていないか、転記ミスしていないか。

◎ 第3に、問題が要求している回答になっているかの確認です。

「記号で答えよ」となっているのに語句で書いていないか、座標で答えるべきところをX=_ Y=_としていないか、「日本語訳で答えよ」となっているのに英文になっていないか、「漢

字で答えよ」となっているのに平仮名で書いていないか。

◎ 第4に、解き直しです。

問題文を読み違えていないか、計算ミスは無いか、一つ二つの英単語の意味を取り違えて長文全体の話がずれていないか、選択問題なのに解答欄が空欄のままになっていないか。

「ウッフ！ 面倒くさ。」

と思ったのでは・・・でも実行してください。なぜならば、すぐに良い結果を出す方法だからです。1点2点をおろそかにしては、穴の開いたバケツで水をくんでいるようなもので、結果的に点数がまとまりません。ケアレスミスが10個もあれば大打撃です。入試だったらアウトです。

面倒くさいで済ませていいのでしょうか。

「いざという時にはしっかりやります。本番には強いんです。」と言う人によく出会います。しかし、普段から出来ない、やらない、やったことがない人が、いざという時に出来るはずがありません。せっかく勉強して実力がついたのに、得点をぼろぼろ取りこぼしていたら、いずれ不本意な道を歩むことになると思いませんか。

つまらない意地と早く決別しましょう。

「点数が取れないんです。」と嘆く前にやるべきことをコツコツとやりましょう。メジャーリーガーのイチローはあんなに打つのがうまいのに、今でも毎日素振りをやっているんですよ。コツコツと。あんなにうまいのに。努力は必ずむくわれます。

自分への言いわけ、やらない言いわけを一生懸命つくって自分をごまかしても、その瞬間ホッとするだけで、何も良くなりません。つらい事、面倒くさい事は「後回し」または「やらない」を繰り返していると結局、いろんなことに負けてすぐ逃げてしまう「みじめな自分」を自分でつくることになります。

よい結果が出ないのは「能力が無い」「運が悪い」からではありません。

「本気の努力をしていない」か「結果が出る前に努力をやめてしまう」からです。

逃げるのは簡単です。いつでも逃げることは出来ます。

でも、あきらめて投げ出した時点で進歩が止まるだけでなく、今ある実力もどんどん後退していきます。自分の弱い心と戦いましょう。面倒なことを引き受ける勇気を持ちましょう。自分自身をコントロールしましょう。努力は必ずむくわれます。

まずは、「正確な答案を書く」ための練習をコツコツやることです。明日からではなく今からすぐ始めましょう。

努力は必ずむくわれます。